V29a　むりかぶし望遠鏡ファーストライト

○黒田大介、宮地竹史、福島英雄、渡部潤一 (国立天文台)

2006 年 3 月に九州・沖縄では、最大の口径である 105cm の「むりかぶし」望遠鏡をもつ石垣島天文台が完成した。東経 124 度、北緯 24 度にある石垣島では、本州に比べ南天の空を観測でき、ジェット気流の影響も少ないことから大気の揺らぎが少なく、空は暗いという特徴をもっている。

主な観測対象は、彗星や小惑星といった太陽系天体であるため、移動天体追尾も可能になっている。これまでに土星や木星、小惑星などを観測している。5 月には、核が多数の分裂を起こしたシュヴァスマン・ヴァハマン第 3 彗星 B 核を十数夜にわたって観測し、その分裂に伴う増光や分裂片の時間変化をとらえた。また、望遠鏡の調整途中の試験観測で、いくつかの銀河、星雲、星団を観測した際には、細部にわたって淡い模様までみることができ、空が暗く大気が安定で口径 105cm を生かした観測が出来ることを示した。

石垣島天文台では、研究用の観測以外にも、昼間の施設見学と週末の観望会を行っている。4 月から 9 月中旬までに 7000 人以上の来台者があったが、9 月 16 日の台風 13 号の暴風によって、ドームスリットを吹き飛ばされ、ドーム内および望遠鏡も冠水したため、それ以降閉館となっている。1 月には復旧作業が開始され、4 月には観測および見学を再開できる予定であるが、南に位置する立地条件から共同研究の依頼もあり、早期に観測を再開すべく努力している。本報告では、石垣島天文台とむりかぶし望遠鏡の紹介、この間の試験観測の結果などを報告する。